

教科（科目）	保健体育（体育）	単位数	3 単位	学年（コース）	1 学年（全）
使用教科書	現代高等保健体育（大修館書店）				
副教材等	現代高等保健体育ノート（大修館書店）				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成する。 ① 自己を知り、他者を尊重する思いやりの心を育成します。 ② 自らの進路目標を持ち、その実現に向けて努力する姿勢を育成します。 ③ 自己の住む地域を知り、地域に貢献し、リーダーとなり得る能力を育成します。 ④ 自ら学び、自ら考え判断し行動できる力を育成します。
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。 ① 人権教育、同和教育を計画的に、教科横断的に実施するとともに、日頃からグループ学習などで生徒同士の関わりを大切にします。 ② 多様な進路希望を実現するため、基礎学力の定着やキャリア教育の充実を図り、生徒が主体的に学ぶ進路学習に取り組みます。 ③ 地域と連携しながら、ひと・文化・産業などについて深く学び、他者と協働し発展的な思考を育てる活動を行います。 ④ 「わかる授業」の実践に努め、生徒の学習意欲向上と主体的・対話的で深い学びの実践活動を行います。

2 学習目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （1）運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけるようにする。 （2）生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 （3）運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育むとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。
--

3 指導の重点

（1）1年生では各種運動の知識を深め、技能を高めることで、運動の楽しさや喜びを深く味わい、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。 （2）勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にするなど公正に取り組もうとする意識を高める。また、仲間との体力などの違いに配慮したり、仲間と助け合ったり、教えあったりするなど仲間と主体的にかかわり協力しようとする意欲を高める。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養っている。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養おうとしている。

5 評価方法

	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・スキルテスト ・記録測定 ・レポート等の提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の取組や表現 ・レポート等の提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業への取組の観察 ・授業準備（服装等） ・提出物の取組状況 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	オリエンテーション 体づくり運動		・シラバス、授業について理解させる ・仲間と積極的に交流するための手軽な運動や律動的な運動などを行うとともに、新体力テストの実施から、体力の構成要素や自己の体力を理解できるようにする。	1 6	計測結果・スキルテストの分析、授業中の取り組みや表現の観察、レポート等提出物の内容の確認
5	陸上競技①	陸上競技（ハードル走）	・陸上競技では、種目の特性と施設・用具の取り扱いやルールの習得と記録計測を行う。 ・100m走ではスタート方法、中間走のスピード維持について、ハードル走（50mH）では助走から、ハードリング技術（踏み切り、空中動作、着地）について学習し記録計測を行う。	10	
6	選択Ⅰ	球技（ゴール型：サッカー、ネット型：バレーボール） 柔道	・各種目の特性と施設・用具の取り扱いやルールの習得とスキルテスト・簡易ゲームを行う。 ・ソフトボールでは捕・送球、バッティングの基本技術について、サッカーでは各種パス、ドリブル、シュートの基本技術について、バレーボールでは各種パス、スパイク、サーブの基本技術について学習し、それらを連携した簡易ゲームができるように学習を行う。 ・柔道では基本動作、投げ技・固め技の基本技術を習得し、それらを連携し簡易試合ができるように学習を行う。	16	
7	体育理論①	上記教科書・ノート	「スポーツの始まりと変遷」 「文化としてのスポーツ」 「オリンピックとパラリンピックの意義」	3	
8	体づくり運動		・仲間と積極的に交流するための手軽な運動や律動的な運動などを行う	4	授業中の取り組みや表現の観察
9	陸上競技②	陸上競技（持久走）	・持久走の特性と施設・用具の取り扱いやルールの習得し、走るペース、トレーニング方法について学習し、校舎外周走、マラソン大会で記録計測を行う。	8	計測結果・スキルテストの分析、授業中の取り組みや表現の観察、レポート等提出物の内容の確認
10	選択Ⅱ	球技（ゴール型：バスケットボール、ネット型：卓球） ダンス	・各種目の特性と施設・用具の取り扱いやルールの習得を行う。 ・ダンスではリズムの特徴を捉え、変化とまとまりをつけてリズムに乗って全身で踊ることを学習を行う。 ・バスケットボールでは各種パス、ドリブル、シュートの基本技術について、卓球では各種ストロークやサーブの技術について学習し、それらを連携した試合ができるように学習を行う。	22	スキルテストの分析、授業中の取り組みや表現の観察、レポート等提出物の内容の確認
11	選択Ⅲ	球技（ネット型：卓球、バドミントン）	・各種目の特性と施設・用具の取り扱いやルールの習得とスキルテスト・簡易ゲームを行う。 卓球、バドミントンでは各種ストロークやサーブの技術について学習し、それらを連携した試合ができるように学習を行う。	23	
12	体育理論②	上記教科書・ノート	「スポーツが経済に及ぼす効果」 「スポーツの高潔さとドーピング」 「スポーツと環境」 以上について学習を行う。	3	授業中の取り組みや表現の観察、レポート等提出物の内容の確認

計96時間（55分授業）

7 課題・提出物等

*各単元ごとで、スキルテストや記録計測、試合や発表を行います。

*各自の振り返りやルールなどの理解度を評価するために、筆記テストやレポート、ワークシート、振り返りシートの提出をします。